令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム えくぼ

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390200046		
法人名	株式会社 介護施設 えくぼ		
事業所名	グループホーム えくぼ		
所在地	〒027-0055 事業所住所 岩手県宮古市長根4丁目13番1号		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所は地域の高台にあり、公園（すずめ公園）が隣接し、桜、新緑、紅葉と四季折々の風情が豊かです。地区居住の職員が多く、職場以外の日常でも地区住民としての交流もあり、職員同士、信頼関係も強く、職場の雰囲気の和やかさにつながっており、利用者様の思いに寄り添い、明るく、家庭的な施設づくりを目指しております。地域の方々にも暖かいご理解を得、花壇の花苗植え付け、七夕飾り、壁画づくりなどのご協力を頂いております。日々、活動に工夫し、利用者様に心地よい、楽しい日々をお過ごしいただき、利用者様、ご家族に信頼して頂ける、家庭的な施設づくりに努めたいと思います。事業所が高台にあり、公園が隣接していることから、災害時には、他施設、近隣の地区住民の避難場所として貢献できる施設でありたいと望んでおります。今後、地域の方々との交流を通して、事業所、認知症に対して理解を深めていただけるよう取り組んでいきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の基礎を設立時に理念として定めた「尊厳」とし、目指す介護の実現のため「理念」「方針」に加え「優しい心で、目配り、気配り、心配りをし、笑顔で触れ合います」とする「えくぼのモットー」を定め、利用者と職員との一体感の醸成に努めている。ホールでは、職員の笑顔が利用者の柔和な表情を引き出し、明るい笑い声が響いている。職員は日々の何気のない会話や仕草から利用者の思いを汲み取り、介護のプロとしての自覚を持って支援に努めている。介護計画の見直しは、全職員でアセスメントとカンファレンスを毎月繰り返しながら行なわれ、職員は9人の利用者の介護目標とそれぞれの思いを自ずから共有しあっている。職員の大半が事業所周辺に居住し、更に事業所開設が地域を足場にしたものであることから、高齢化が進むなかにあっても、地域との目に見えない繋がりを持っており、良質な介護のクオリティーと併せ、今後とも事業所の強味として活かしていくことが期待される。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム えくぼ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【理念】【方針】【モットー】は事務所に掲示し、木曜日、職員の朝の引継ぎ時、【モットー】については毎朝、職員の引継ぎ時、利用者様との活動の開始時、職員のミーティング時の唱和を実践、職員の意識を高めるよう努めている。	設立時に「尊厳」をキーワードとする理念を定め、現在に至っている。目指す介護の実現のため、理念、方針に加え、職員の在り方を「えくぼのモットー」として掲げ、利用者と職員との一体感の醸成に努めながら、職員のプロ意識を育てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所、職員、利用者様も地域の住民であることから、回覧板を通して地域の情報を得たり、回覧板を近隣に届けたり、また、職員も地域の役員をしていることから交流があり、利用者様への暖かい理解につながっている。	長根地区町内会に加入している。職員の大半が地域に居住しているなど、地域との繋がりは事業所開設時から強固である。コロナ禍のため利用者が地域のボランティアと一緒に工作に興じることは見合わせているが、利用者がすぐに取り組めるよう、今年も四季折々に材料を提供していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が地域居住者が多いことから、地域の方々との交流の機会もあり、その中で、年々、地域も高齢化が進み、事業所への関心も多く、不安を抱える地域の方々に認知症介護の経験と学びえたことをお話し、事業所への理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過の現状では、運営推進会議も開催が難しいが、会議では、市、地域、ご家族の参加、事業所の取り組みを理解して頂くよう努め、参加した職員が、会議で話し合われとことを、日々の業務に活かすよう努めてきました、しばらく開催できていなかったので、今後も、感染症に対しての地域の状況を見ながら11月には開催したいと考えている。	コロナ禍のため密を避けるようにとの市の指導を受け、会場を事業所ホールとしていることもあり、昨年3月以降、参集しての開催は見合わせている。そのため止むを得ず、委員の町内会長、民生委員には事業所の状況を個別に口頭で報告し、交代で出席している家族全員に「えくぼだより」を定期に届け、利用者の日々の生活の様子を伝えている。管理者は、コロナ禍の縮小傾向が見られることに伴い、参集開催の環境が整ってきたことに安堵している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援専門員による、入居、退居時の相談、待機者の情報提供をお願いしたり連携を保つよう努めている。包括支援センターの活動にも可能な限り参加し、事業所との協力を頂けるよう努めている。	事業所と市との繋がりは、生活保護受給者を含め、利用者に関連することが大半である。ケアマネが定期に市の担当課を訪れ、入居希望者や市の各種情報を持ち帰っている。地域包括支援センターとは成年後見制度の適用について協議を進めているところである。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム えくぼ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【身体拘束検討委員会】を設け、定期的に、あるいは、必要に応じてミーティング時に開催し、日々の業務の中での気づき、情報交換で課題を見出し、拘束、虐待をしないケアに繋げるよう、学習の場としている。	委員会は職員全員が参加して定期に開催され、研修会を兼ねる場合もある。研修会では管理者作成の資料で学習を重ね、職員は身体拘束が事業所の基本である利用者の「尊厳」を脅かすものとの認識を既に共有している。7つの居室が二階にあるが、夜間でもセンサーは使用せず、職員は階下にいても微かな物音から利用者の動きを察知し、支援に当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	拘束、虐待については、職員同志の信頼関係を築いたうえ、悩みや、精神的負担を取り除けるよう努めたい。職員個々の問題として考えるより、ミーティング研修の場で話し合い、防止に繋げるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加職員による資料に基づいて伝達研修。今後は活用できるようにスタッフミーティングで学びたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、十分理解して頂けるよう,丁寧に説明するよう心掛けている。また、入居後も、ご本人、ご家族のご意向に添い、適切な対応、安心して頂けるような対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族対応通院時、電話でのお話の際、ご家族様がご意見、ご要望など、話しやすい対応に努める。	家族に電話したり通院付き添いで来所した際に事業所への意見・要望を伺っているが、「宜しくお願いします」とするのが大半である。運営推進会議の席で家族から年間予定表の作成配布の提案があり、具体化した例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎朝の業務引継ぎ時、スタッフミーティング時、また、職員の情報交換により知り得た運営に関する意見や提案、問題点を考察、時として、上司に相談、運営に反映出来るよう努めている。	一定額以下の支出は事業所の裁量に任せられていることもあり、職員の自主的判断を尊重し、食器の入替、食材の購入等のほか、シフトも職員都合の申告を基本に編成されている。最近、非常階段に設置した停電時でも点灯するセンサーライトは、職員の提案によるものである。	

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム えくぼ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の勤務態度、意欲、資格取得など、給与考察に反映させている。また、休暇希望を実現させ、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過であることから、研修受講の実現は難しい状況下ではあるが、今後は、各研修の受講に向け、時間の確保が出来るよう努める。内部研修では、その時々に、看護師、ケアマネジャー、管理者で適切なテーマを相談し、研修の場としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会支部、県の開催する研修会に参加し、、交流を図っている。今後、コロナ禍の状況の中で、状況によっては外部研修参加を積極的に勧め、職員のケアの質の向上に努める。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時、入居に関しての不安や要望をお聞きし、安心できる生活、サービスの提供についてお話し合いをし、一日も早く信頼関係を築き、安心していただけるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時、ご家族の要望をしっかり把握し、事業所との信頼関係を築き、どの職員にも、不安、要望を話していただけるよう、事業所の環境づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人を良く知るた、入居まで、ご家族とお話し出来る機会を多く持てるよう努め、必要なサービスを見極め、ご本人、ご家族に理解して頂き、不安のない生活をして頂けるよう努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム えくぼ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ過である現在、職員と共に時間を共有することが多く、家族のような関係の生活の中、更に強い信頼関係が強くなり、より良いケアに繋がっている。食事を共にし、活動での職員との時間の共有を多くするよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様との関わりを「ご家族様の代わり」という考えでのサービスの提供と考え、ご本人、ご家族様には、事業所、職員を信頼して頂き、あたたかい関係づくりに努めている。また、年賀状、暑中見舞いなど、ご本人とご家族との絆を深めるよう支援。二ヵ月に一度「えくぼだより」を送付し、ご本人、ご家族、職員の関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過であるため以前の様に外部の方たちの来所もない現状であるが、ボランティアさんには、事業所、利用者様の状況をお伝えし、「出来る事」の制作活動の準備をし、事業所に届けていただき、職員と一緒に季節の壁画づくりの楽しみを持てている。ボランティアさんには、その様子を「ホーム便り」をお届けし、活動の様子をおしらせしている。	加齢に伴い、利用者にとって友人・知人はもとより、家族・親子関係の意識も希薄になってきている。コロナ禍で面会もままならない中、家族に電話したいとする利用者がいないのが実態としている。利用者にとって、野菜を差し入れしてくれる近所の方や、かかりつけの医師が馴染みの人になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、利用者様の性格、個性などを把握、また、職員とのコミニーケションを図り、利用者様同志のより良い関係を保つことに努め、楽しく生活出来るよう支援。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居された後、ご家族様とお会いした時などは、その後の様子をお伺いしたり、入居中の思い出、様子等をお話ししたり、退居後もその関係を継続出来るよう、努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム えくぼ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で状態変化を把握し、柔軟な対応、ケアが出来るようミーティングで話し合い、支援に努めている。利用者様同士での会話の様子から、思い、意向を把握できるよう努めている。	利用者の意向を聴き取るための時間を特別に設けることはせず、職員は普段のさり気ない会話の中や表情の変化から利用者の意向把握に努めている。数年前までは自分の自由帳を持ち「マイノート」として利用者自身が希望などを記入していたが、今では名前も書けなくなってきている。加齢が進む介護現場にあって、職員は介護のプロとして、それぞれの努力により利用者の思いを把握できていると、管理者は職員を評価している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の支援の中で、入居までの生活状況を把握できるよう努め、今後、継続していきたい意向に添った暮らし方が出来るように支援。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所の掲げるモットー、目配り、気配り、心配りに添ったケアに努める中で、また、介護記録などでご本人の現状を把握し、情報を共有し、より良い生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録、情報交換等で課題を見出し、ご本人、ご家族と話し合い、スタッフミーティング、カンファレンスでより良いケアに反映出来るよう意見交換し、介護計画作成へ繋げる。	毎月のカンファレンスは、利用者全員9人を対象として行い、その過程を経て3ヵ月毎に介護計画を見直している。ケアマネは、自ら作成した見直し案を提案し、職員の意見を集約した上で成案としている。これにより、居室担当を含めた職員全員が、9人の利用者を同じ認識で支援している。今現在の職員のテーマは、車椅子利用者をいかにして自分の力で歩けるよう、介護計画に沿って支援することとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日中、夜間の経過、気付きを個々のファイルに記録し、ご本人の状態を把握、職員で共有し、介護計画に反映、より良い支援に努めている。		

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム えくぼ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態、重度化に伴った、利用者様の思いに添ったケア、状態に応じて個別に柔軟なケアが出来るよう、スタッフミーティングなどで話し合い、支援につとめている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住民団体、民生委員に事業所への理解を得られるよう努めている。事業所の特性を認識して頂き、課題の解決に協力して頂けるよう関係を深めるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご家族様に支援をしていただいているが、ご家族様が遠方にお住いの利用者様については、入居前からのかかりつけ医の定期受診、病状急変時などは通院支援をしている。緊急時、病変時は、ご家族、医師との早急な連携を図るよう支援。	入居によりかかりつけ医を変えた利用者はなく、原則家族の付き添いで、市内の開業医、県立病院、専門科を定期に受診している。受診に際しては、血圧手帳等の記録や医師への連絡事項を記載したメモを託している。配置している非常勤の看護師は、受診時の付き添いや日常の健康管理、介護職員への助言を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師とは連絡ノートを通して、利用者様の体調変化に対して、適切な指示を受け、受診支援に繋げている。看護師の指示を職員に伝え、、速やかな対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院時には、ご家族、看護師、医療機関と連携を図り、情報を正しく伝達、安心して治療出来るよう努めている。退院後も、ご家族、医療連携室と情報を共有し、安心して生活できるよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から、高齢化に伴う重度化、病状急変時の際の事業所として対応可能なこと、不可能なことの見極めの必要性を理解して頂けるよう努めている。病状変化については、ご家族にしっかり伝え、その後の方針など、ご家族への対応に努めている。	常態として看取りは行なっていないが、重度化した場合でも入浴や食事の介護が可能な限りは、事業所のマンパワーも考慮しつつ、入居を継続していただいている。介護度4又は状態の進み具合に応じ、事業所として対応可能なこと、及ばないことを家族に説明しながら話し合いを行なっている。	

令和 3 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム えくぼ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、看護師の指示で対応、災害時の対応は、緊急連絡網にて速やかな対応に努めている。今後、高齢化に伴う利用者様の災害時の対応は訓練も含めて課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練、防災訓練の実施、スタッフミーティングで、課題、訓練の反省点を見出し、運営推進会議に参加して頂いた地区役員、近隣住民の方に避難時の状況へのご理解を頂くようつとめている。地域の住民も高齢化が進む現状とコロナ過であることから課題も多いが災害時は地域一体という考え方が望ましが、地域も、超高齢化が進み、今後の大きな課題である。	避難訓練は年2回実施し、居室の名札を裏返し避難済みの目印を付け、利用者は防火頭巾をかぶって行なっている。職員の提案で設置したセンサーライトは隣接する公園（避難場所）の街灯を補うものとしている。地域の方々からは長年にわたり避難訓練時の協力をいただいているが、高齢化が進みこれまでのような協力は物理的に期待できなくなってきているのが実状である。	利用者7名の居室が二階にあることから、職員の手が限られる夜間の発災に備え、現実的避難方法について、改めて検討されることを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念、方針、モットーに基づいた支援が出来るように努めている。丁寧な言葉、笑顔でのケアにつとめている。毎朝、引継ぎ時には、モットーを唱和し、また、利用者様の活動初めには、利用者様と一緒にも唱和し、職員の意識を高めるように努めている。	「尊厳」に重きを置いた理念は、職員全員に徹底され、「笑顔で触れ合う」とするモットーは、職員と一緒の唱和により利用者のものにもなっている。利用者のプライバシー保護のため、ホールに接するトイレのドアを二枚仕立てのカーテンに代え、その結果職員2人での介助も可能としている。利用者の個人情報は、ロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、コミニーケションを図り、これまでの生活環境、生活習慣を把握出来るよう努め、丁寧な言葉がけを心掛け、思いや希望に添った生活の支援、また、自己決定を尊重出来るよう、個別対応支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間の情報交換、業務引継ぎ時で、皆様の状況を把握し、ご本人が不穏状態にある時は、職員が個別に対応し、気分を変えて頂けるよう努め、快適にお過ごしいただくよう、支援につとめている。		

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム えくぼ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、清潔であることを第一に、通院時、入浴後の更衣時など、ご本人の希望を取り入れ、季節に合った支援に努めている。コロナ過であることから、ヘアカットは、ご本人の要望をお聞きし、職員がカット、とても喜ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、食卓の消毒、食器の片づけなど、出来る事の力を活かすよう支援。職員も一緒に席につき、食事の楽しみを共有出来るよう支援。四季折々の献立、食事提供に努めている。	夕食のみ主菜・副菜を湯煎して提供しているが、三食とも温かく彩り豊かな工夫をしており、どの利用者も食欲豊かで目立った残食はない。ホールには大きな模造紙の「当番表」が貼り出され、利用者が出来る範囲で食事の準備に参加しようとする意欲を醸成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分摂取量を記録し、状態の把握に努めている。抱える病状や体調の変化、高齢化に伴い、食事提供の形態を考慮しての支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、介助にて口腔ケア。義歯を洗浄、うがいの見守り、義歯は一晩洗浄剤にて消毒。入居前までの習慣が根強い利用者様も職員の介助で、現在は皆様の口腔内の清潔が保たれています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録、職員の情報交換で近日の排泄パターンを把握、声掛け、誘導に繋げ、自立支援に努めている。	排泄の状況を克明に記録して排泄パターン等を把握しており、自分でトイレに向かう方、耳元でそっとささやき個々に誘導している方とそれぞれであるが、全員がトイレを使用し日中は自立している。布パンツ使用者こそいないが、全員がリハビリパンツでオムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録から排便状況を把握、また、バランスのいい食事提供、多めの水分補給、軽運動で、排便に繋がるよう心掛け、また、医師からの下剤の処方で排便コントロールし、快適な生活支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体の清潔保持を第一に、体調に合わせ、また、必要に応じた入浴支援に努めている。入浴時は職員とのコミュニケーションを図り、日々のケアに繋げるよう支援している。	週2回又は3回、午後の時間帯に1日3人が入浴し、車椅子利用者の入浴介助は2人の職員が当たっている。職員は利用者とのコミュニケーションを図りながら、傷等の身体状況も確認している。着替えは職員とともに利用者が好みのものなどを予め用意している。	

令和 3 年度

事業所名 ： グループホーム えくぼ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の活動の中に適度な軽運動を取り入れ、夜の睡眠時、安眠出来るよう支援に努めている。昼食後からおやつ時までは自由に休憩をとるなど、ゆっくりお過ごしいただいている。居室は、温度、湿度など環境を整え、安眠出来るよう努めている。また、不穏時は職員とコミュニケーションを図り、安眠にお誘いするよう支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用を理解し、服薬支援。体調変化等、職員間で情報交換、看護師と連携し、服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の毎日の生活の中で、食事前のテーブルの消毒、新聞折りの作業、洗濯物の整理などを日課とし、役割としている。小さい食器の下膳、食器洗いなどで、自分の役割を果たすことで張りのある生活を支援できる様に努めている。昔ながらの季節の行事等、食を含めての楽しみを持っていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化に伴って、運動機能の低下、体調変化により、個々の外出が少なくなっている。コロナ過であることもあって、地区のイベントなど戸外に出掛けることも難しく、通院者があるとき、他の利用者様を、ドライブがてらの外出支援に繋げてる。ご自宅の畑の様子を見ながら収穫された野菜を事業所に提供して頂いたり、ご本人の望まれる外出支援に繋げている。	利用者の高齢化が進むなかでのコロナ禍と、外出の機会は通院程度に限られてきている。以前は職員総出でドライブを楽しんでいたが、今は見合わせ、運動と外気浴を兼ねて、何人かの利用者が交代で、職員と手を繋いで隣接の公園に出掛けている。運動不足を補うため、週に何回か事業所の階段の昇り降りを行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談、了解の上、お預かり金としての金銭管理をさせていただき、日用品雑貨の購入、個々の能力に応じて個々の買い物支援が理想であるが、コロナ過の現状では外出が出来ず、お金を使うという事の実践は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別にご家族様と電話で会話ができるよう、支援。年賀状、暑中見舞いなどで大切なご家族との繋がりを意識して頂けるよう支援。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム えくぼ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様のくつろぎの場、ホールには、ソファを設置、DVD鑑賞、テレビ鑑賞、また、台所で調理している職員の様子を見ながら会話をしたり、皆様が、変化のある、楽しみが持てるようお過ごしいただいている。共同空間でのテレビ鑑賞、DVD鑑賞は職員との共通の話題で、更に楽しい時間になっている。ホールは季節感あふれるレイアウトを心掛けている。浴室、トイレは常に清掃、除菌し、清潔を保つようにしている。	車椅子利用者を中心に、2階の居室移動には専用エレベーターを使用できる環境にある。テーブル、椅子、ソファが設置され、食事、テレビ、DVD鑑賞等くつろげる雰囲気があふれ、また職員が台所での調理をしながら利用者とともに笑顔で話をしている。1階及び階段には、花や七夕等の季節の飾り、2階には籐木製長いすと観葉植物が置かれ、隣接の公園を見ながら心休まる配置をしている。全館通路に手すり、階段に安全柵を設置し、安心して動きやすい環境である。また、ホールには、利用者一人一人の曜日ごとの役割分担表が掲示され、生活人として意識されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一階ホール、二階にソファーを配置し、独り、あるいは複数人数で和やかにお過ごしいただける空間になっている。また、ホールは団欒の場であり、食席の場でもあるので、時折の席替えでのホールの雰囲気に変化を持たせ、利用者様同士、より良い関係を保てるよう、支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活と同じようにお過ごしいただくよう、使い慣れた背活用品を配置し、穏やかに、快適に、安心して頂けるよう支援。制作活動での作品等、好みのレイアウトで、個性のある、楽しさのある安らげる居室づくりを支援。	居室は、ベッド、暖房機、クローゼットが整備され、椅子・テーブルやテレビ、衣装ケースを持ち込み、壁にはカレンダーや利用者自身の貼り絵作品を飾っている。床・壁ともに清潔感のある色合いで、隣接して公園がある周辺環境であり窓からの陽の光も差し込み、心地良さが伝わってくる施設配置である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は、通路に手摺、また、階段には安全策を設置し、安全な環境づくり努め、トイレ、洗面所、浴室、階段、エレベーターなどの表示をし、自立支援に繋げている。一人一人の曜日ごとの役割分担表をホールに提示し、可能な限り「できること」の支援に繋げている。		